資料４

まちづくり構想に関する計画策定の流れ

現在のまちの姿を知るためのアンケート等の実施
意見交換

意見内容の整理

意見からキーワードの抽出

キーワードから連想されるまちづくりの方向性を導く
（キャッチフレーズ）

まちづくり基本構想の柱となる将来像を描く

将来像を基にゾーニング

ゾーニングから見える駅機能の検討

基本構想の策定

４．協議事項　（１）前回意見を踏まえたまちづくりの将来像（方向性）について

資料4

委員方等から頂いた意見やアンケート結果のうち、まちづくり構想の方向性に関する事柄
（建物・施設や場所に関するもの）

①（協議）図書館や公民館のような交流スペース、育児支援機能を集約した施設等を描いてほしい

②（協議）高校が周辺に多くあるので、電車の乗り継ぎ待ちにも利用できるスペースを望む

③（アン）魚津駅・新魚津駅は、電車待ちの環境が良くなく、トイレも不便である

④（アン）買い物や飲食、サービス等、周辺利便性は低く、魚津駅・新魚津駅周辺環境に対して不満がある

⑤（アン）魚津駅・新魚津駅に求める機能としては、商業機能を充実して欲しい。特にコンビニエンスストア、カフェ等の飲食店や物販店等の誘致を行って欲しい

⑥（市民）線路内の空きスペースに魚津の花などの群生地を設け、鉄道を見下ろしながら飲食を楽しめるような施設を計画してみては

⑦（協議・市民）駅を建て替えるなら見晴らし良く景観を見渡せる駅舎や展望カフェを望む

⑧（協議）複合施設を計画するのであれば、周辺老朽ホテルや市庁舎、市民ホール等も視野に入れてみてはどうか

⑨（市民）海岸部へ向かう観光客が迷子になっているので、案内看板の設置等にも配慮して欲しい

⑩（市民）他施設の事例を参考に、観光案内所内容の拡充を図ってみては

左記の内容が実現した場合の効果

図書館があることで学生等が電車の待ち時間を勉強等に有効活用でき、通勤・通学以外の幅広い層の人々も集まる事で、賑わいが創出できる。

育児支援施設があることで、電車通勤や子供を連れていけない用事の際に預ける事ができるので、電車等の公共交通利用者が増加する。また、育児世代の情報交換の場にもなる。

交流スペースがある事で、子供から高齢者まで世代を超えた様々な人々との出会いや憩いの場が創出できる。

洋式化や誰もが気持ちよく利用できる快適なトイレ空間があることで、利用者に喜ばれる。

駅利用者が気軽に寄れる商業施設や観光案内所があれば、交流スペース等からの動線がさらに活性化される。

景観を堪能できるくつろぎ空間が、駅利用者の足を止め、観光客やビジネス客が話題性のある展望カフェを利用し情報発信する事により、利用者の輪が広がる。

施設が集約され土地の有効活用につながり、市役所やホテルが駅舎に併設されることにより、市役所窓口に来場する市民が駅にも来場する等の多機能化が図られ、相乗効果も生まれる。集客力が上がり人通りが増え、老舗ホテルの活力も再生される。

連続性のあるきめ細かな案内表示により、観光客が気軽に安心して観光地に辿り着けるので、好感を持つ。

効果から連想するキーワード（例）

教育

情報

子育て

交流

くつろぎ

バリアフリー

快適さ

滞留

景観

再利用

再生

集約・コンパクト

評判

４．協議事項　（１）前回意見を踏まえたまちづくりの将来像（方向性）について

資料4

委員方等から頂いた意見やアンケート結果のうち、まちづくり構想の方向性に関する事柄
（道路・交通施設に関するもの）

①（協議）駅周辺の活力は公共交通にとって重要なので、駅周辺の住居機能を高める必要がある

②（市民）周辺の観光アクセスについて、直接行けるルートが無い。観光を主として考えるなら、駅西広場から海岸沿いに繋がる道路を整備すべきでは

③（協議）観光都市化に向け、駅から海の駅まで気軽に行ける動線整備を望む

④（協議）スムーズな乗り換えが出来る駅を見据え、ICシステム・情報技術の進展等の新しいシステムも視野に入れるべき

⑤（市民）乗換地として利用されている魚津駅・新魚津駅の乗換えの利便性向上は必要である

⑥（協議）東西を自由に移動でき電車やバスの利用促進を視野に入れた駅前広場の計画を望む

⑦（協議）地下道は女性や子供にとって使い難いので、橋上駅舎と両広場を繋ぐ自由通路を望む

⑧（協議）駅の近くに駐車場があまり無いのでパーク・アンド・ライドがしにくいのではないか

⑨（専門）駅西広場のスペースは、パークアンドライド促進のための自動車用駐車スペースにしたらどうか

その他

・観光客は地元ならではの老舗に魅力を感じる
・レンタサイクルは需要があるので利便性向上を望む
・駅東側にある駐輪場が古くて汚いので、改修して綺麗に利用して貰える環境作りを望む
・魚津はホテルが多いので、宿泊して夜の街を楽しんで貰える仕組み作りをして欲しい

左記の内容が実現した場合の効果

駅中心のまちなか居住が進み、歩く人が増えて駅周辺が活気づくことにより、公共交通の利用者が増える。

分かりやすい道路により、早く気軽に余裕のある観光が出来る。通行量が上がり、道路周辺の開発がされ、賑わいが増える。

スムーズに乗り換えが出来るようになり、駅利用者が満足する。

乗換拠点として利用し易くなり、観光客・ビジネス客の宿泊拠点としても十分に満足される。

交通動線が分離され、公共交通乗継の利便性も向上した駅前広場を起点に、多方面への移動が盛んになる。

駅の改札もあり、明るく人通りが多く安心して通行できる自由通路が、防犯につながる。

車等と鉄道の乗継利便性が上がり、魚津駅を利用する市民が増え、駅利用者が増加する。また、CO2削減や公共交通利用拡大にもつながる。

綺麗で広々とした歩道が街中に拡がり、自転車や歩行者が安全で快適に往来する賑わいある道路空間が創出される。

効果から連想するキーワード（例）

観光
まちなか居住
公共交通
スマート
乗換時間短縮
バリアフリー
相互乗り入れ
利用し易い
スムーズ化
おもてなし
交通結節点
安心・安全
利用者増
環境
まちぶら

以下、個別具体施設等についての意見等一覧

分類	意見概要
まちづくり	公共交通の利便性向上は必要だが、駅や広場を直しただけでは人は集まらない
	地下街や郊外SCのテナントも最近は厳しい状況なので、商業施設は慎重な計画を望む
	駅西広場横の商業施設は、駅の上に計画する等、もう一工夫して注目を浴びるようなものにしないと失敗するのではないか
	駅周辺整備単独では事業に反対の市民も多いと思われるので、全体計画における駅整備の位置づけを示して欲しい
	市庁舎・ホテル・運送会社・鉄道事業者等、全部巻き込んで今後計画検討してはどうか
	利便性よりも話題性をまず考えてみてはどうか。人を引きつける魅力があれば、不便でも賑わうのではないか
	需要を生み出す事を目指して、多種多様な方策を盛り込んだ計画にしたい
	駅を中心とした駅周辺の土地利用や道路、民間施設を含めた施設配置を考える必要がある
	まちなか居住、空き家対策等の中心地への居住誘導についても検討していくべき
	新魚津駅利用者の8割弱は定期利用者、一般利用者が増えるようなまちづくりを望む
	魚津市全体で考えた整備を望む
	夢のある計画なので、若者達が住みたいと思う街づくり、市民が元気付く夢のある計画として欲しい
	富山市のまちづくりや、デザイナー設計のアオーレ長岡等、先進の成功事例
	市庁舎など多くの老朽施設の改修など事業の優先順位についてどう考えるのか
	交流人口を増やすためには各地区が連携して街づくりを行う必要がある事と、賑わい創出に繋がる魅力ある企業誘致も必要ではないか
	例えば、小学校統合により空いた耐震済みの校舎を庁舎として利活用するなどのアイデアを集めて欲しい
	(都)カーバイド上村木線沿線の土地を利用して、駅から海岸沿いの観光施設を周遊できる乗り物を作り、賑わいを創出してみてはどうか
観光	改札口を出たら魚津のことがたくさんPRされていれば良い
	休日の昼時、観光客は特定のお店にだけ行列を作るので、周辺情報の提供をして欲しい
	魚津の強みは飲み屋街。魚津以東の者は駅前飲食店街をよく利用するので、もっと利便性を図るべき場所
	観光客が日曜日の昼飯に魚を食べたくても駅周辺飲食店が休みの現状をまず改善すべきでは
	飲食店の日曜日定休や、カニなどを提供している店自体が少ないので、改善を望む
	魚津はホテルが多いので、宿泊して夜の街を楽しんで貰える仕組み作りをして欲しい
	近隣市も含めた広域的な観光客動線を考えた対応をして欲しい

交通	持続可能な地域公共交通のためにも、使う目的やきっかけを整理しながら計画して欲しい
	バスルートや一般駐車場の工夫を望む
	現状を分析しながら賑わいの創出と公共交通を維持して欲しい
	山あいの歴史施設を訪れる観光客が多いので市民バス等での移動手段確保を望む
	地域公共交通の活性化は、これからの持続可能な社会の形成には必須ではないか
	北鬼江こ線から駅西広場までの鉄道残地を道路整備する等の利活用も考えて欲しい
	8号バイパスから海まで通り抜ける道路を計画して欲しい
	緊急車輌や観光バスも通行できないガード下の改良は、地元地区の昔からの要望なので実現して欲しい
	カーバイド上村木線が改良されると、交通量が増え騒音が増大し危険にもなるので、現状維持を望む
賑わい	まずは人が集まる施設を作り、状況を見ながら周辺整備を進めても良いのではないか
	高齢者も電車で魚津に来て買い物等で半日程過ごせるような街づくりを望む
	事業費を賄う市の予算の問題、既存商業施設や飲食店街への影響も考慮するべき
	何もしなければ賑わいも喪失するだけなので、踏み留まり回復し発展を目指して欲しい
	駅周辺の労働者人口が増えれば昼間飲食店街の賑わいを取り戻せるのではないか
	人が集まるだけでも観光地として成り立つので、駅や駅周辺そのものに人を集めて賑わいづくりをする視点が必要
	公共交通利用者が駅前に長く滞在して貰える工夫が必要
	賑わいを生み出すには地域が連携していく事が大切
	駅周辺の賑わいのためには、まちがきれいでなければならない
	駅前に民間のコインパーキングが進出できない事等が、経済循環を阻害している一因ではないか
	飲み屋街への車輌進入禁止は無理でも、一方通行規制等、歩行者を優遇しても良いのではないか

駅舎・駅前広場	癒しのスポット整備等を地場産材の魚津の木などを活用して進めて欲しい
	デザイナーを起用すれば、それだけで人が集まるので、まずは自由通路の整備を望む
	魚津駅については今でも地下道整備や両駅の橋上化などを求める声があるのか疑問
	鉄道の相互乗り入れは、電化方式の違いや技術的な課題も多いことから、中長期的な課題と認識している
	鉄道車輌更新に見合う効果について検証が必要
	鉄道の相互乗り入れは安全面の課題が一番大きく、複雑な信号の操作や上下線にクロスする亘り線など、他社車輌は他社路線を使用する等、両社間での問題や、ダイヤの規制等も考えられ、課題は多い
	駅の東西は、遠いといっても所詮150m程度の距離で、鉄道をアンダーパスする道路の改善や商業的なものも合わせて考えていけばどうか
	駅舎に市庁舎を移転する事が賑わいを生む事に繋がるので、駅ビルに予算を集中させて施設をコンパクトに集約してはどうか
	駅西広場横の商業施設の整備手法、運営主体の明確化と、整備時には地下通路接続を可能として欲しい
	駅前広場は、バス・タクシーと一般車の動線が重なっており危険なので再整備して欲しい
	駅前広場に隣接する建物のテナントに空があり、暗く感じるので配慮できないか
	鉄道駅舎を移設しても人が集まるとは思えない
	年寄りが利用し易い駅整備をして欲しい
	鉄道駅は市の顔（玄関口）であり、イメージUPに繋がるような整備をしてほしい
	駅周辺整備よりも、駅前広場のイメージアップに枯れ木を植え替える等、他の事業に予算を使う事も考えたらどうか
	魚津駅・新魚津駅の間の移動距離が長く、上下の移動が不便である
地下道・自由通路	車や人の交通動線を見ると、駅の西側と東側が鉄道で分断されているので消出来れば良い
	地下道は窓も無く暗いので、特に女性には利用しづらい。地上に持ってこれないか
	地下道について、企業や美術系大学と協働で、視覚的に楽しく通行できるような工夫をしてみてはどうか
	両広場を自由に通行できない整備では意味がない
	両駅を跨線橋で繋ぎ、中途半端に両広場の出入り制限が加わると迷う人が出てくる
その他	街路樹の剪定等、維持管理費も予算立てしながら進めて欲しい
	観光客やビジネス客の意見も反映して周辺まちづくりを考えるべき

４．協議事項　（１）前回意見を踏まえたまちづくりの将来像（方向性）について

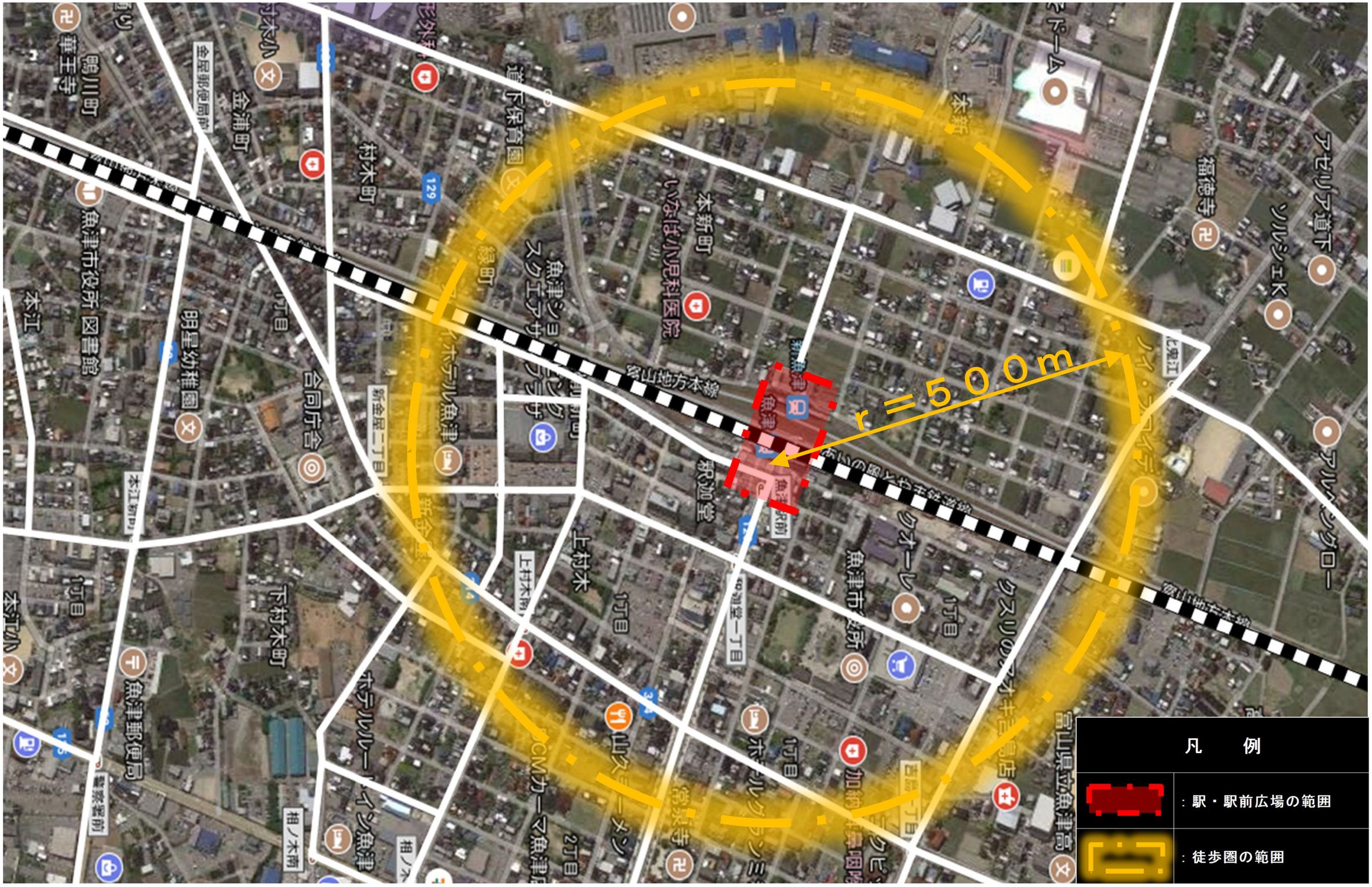
資料4

キーワードから見えてくるまちづくりの方向性やキャッチフレーズ

●委員の皆様には、以下について議論をして頂きたいと思いますが、新たな意見やキーワードを含めて、思い描く「まちづくりの方向性」や「キャッチフレーズ」をご提案して下さい。

委員の皆様が考える、魚津市に相応しい「まちづくりの方向性」や「キャッチフレーズ」について

着目したキーワード 又は 新たなキーワード	例）まず「まちなか居住」、「まちぶら」、「公共交通」、「快適さ」
上記の理由	例）着目点：人が歩いている事が賑わいを感じるため、街中を歩くには快適さが必要で公共交通も欠かせない
まちづくりの方向性	例）「歩いてもらう」
キャッチフレーズ	例）「楽しく歩いて快適に暮らせる（駅周辺）まちづくり」

４．協議事項　（１）前回意見を踏まえたまちづくりの将来像（方向性）について

「駅・駅前広場」、「徒歩圏」の範囲